

平成30年度第2回総合教育会議

- 1 日 時 平成30年12月19日（水曜日）
午後3時30分～午後4時30分
- 2 場 所 富士見市役所 1階 第2委員会室
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 五十嵐 洋太
委員 小野寺 巧
委員 簗輪 菊雄
委員 渡部 利枝子
- 4 署名委員 委員 五十嵐 洋太
委員 小野寺 巧
- 5 説明職員 教育部長 林 みどり
教育政策課長 鈴木 誠
学校教育課長 小林 正剛
- 6 事務局職員 総務部長 古屋 勝敏
秘書広報課長 森園 幸則
秘書広報課主事 仲澤 大気
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事
(1) 富士見市への愛着を育む取り組みについて

○星野市長

みなさんこんにちは。今日は、平成30年度第2回の総合教育会議ということで、教育委員の皆さまにはお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。教育委員会会議に引き続き、お疲れのところかとは思いますが、よろしく願いいたします。

12月の定例会では、教育委員会の所管でございます総合体育館の新たな指定管理者を決定したところでございます。もうすでに教育委員会会議の中でご報告があったかと思いますが、新しい指定管理者とともに、体育館をご利用いただく皆さんに、さらに利用頻度をあげていただく、また愛される体育館になるようにということでこれからも市長部局とともに頑張ってお参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の総合教育会議で、教育委員の皆様と協議をさせていただきました、命の大切さを基本理念といたします、富士見市教育大綱を策定いたしました。8月から来年の2月にかけて市内の全ての小・中・特別支援学校でいのちの授業として助産師さんによる講演を開催しております。

さらに、中学校では、命の尊さを学ぶ様々な取り組みが実施されております。12月3日に山口教育長とともに、水谷中学校そして本郷中学校にお邪魔をさせていただきました。水谷中学校におきましては、赤ちゃんふれあい体験が開催されました。

子ども達と触れ合う時間は短いですが、赤ちゃんを抱き上げてみたり、頭を撫でてみたりするうちに子ども達の顔が変わっていく様子が見て取れました。さらには、男の子も女の子も別れを惜しみながら赤ちゃんにさよならと言っている、そういった生徒たちをしっかりと見させていただきました。こうした体験を通じて、生徒一人ひとりが、いのちの重さを実感すると共に、まずは自分を育ててくれた両親への感謝や、自分や他人を大切にするという心を育んでいってほしいと感じたところでございます。

本日は、「富士見市への愛着を育む取り組みについて」を議題にし、皆様方と意見交換をさせていただきたいと存じます。

超高齢社会・少子化社会ということで、本市も現在は人口が微増している状況ではございますが、今後は人口が減少していくと予想されております。近隣では、ふじみ野市を除く三芳町・富士見市は、2025年には現在から比べると4%から10%程落ちると予想されております。我々は人口減少への対策を打ち込んでいく必要があると考えております。これからも元気に発展し続けるまちづくりをしていくために、子どもたちに自分の住んでいるまちの魅力を伝え、愛着や誇りを持ってもらう。そして成長してからも富士見市に関わりをもってもらえるような取り組みをしていくことが、非常に大切であると考えております。

11月7日・8日に、私と教育長、鈴木教育政策課長そして武田小中学校連携教育推進担当課長、森園秘書広報課長と共に富山県へ視察に行きました。これは、富山市立の小中一貫校と高岡市にございます株式会社能作という会社の視察を目的に行ってまいりました。

ご存知のとおり高岡市は伝統工芸品に鋳物、江戸時代その前からでしょうか仏具・仏像こうした物を作る伝統工芸品の地場産業が大変盛んでございます。現在でもそうした企業さんがまだ数多くあります。裾野の広い産業で、型を作る方、材料を納める方、または磨きをかける方など分業がなされております。この能作さんという会社は、この10年から15年で3倍ぐらまで売上を伸ばしてございます。飾って綺麗な工芸品や、日常的に使いやすいものなどを制作するとともに、現在は百貨店系で全国に店舗展開をされており、さらにはニューヨークやバンコク、台北などにも直営店をオープンしています。伝統産業を、グローバルな商品に変えつつあるという会社でございました。この会社の素晴らしいところは、子どもたちに伝統工芸の素晴らしさを伝える授業を13年前からしております。高岡市と連携して、工場見学を通し地元産業の素晴らしさを子どもたちに伝え、地域に誇りや愛着を持つ心を育てておられます。

見学は実際に外から見るということではなくて中に入れていただいて工程を拝見させていただきました。工場は大変綺麗に整理整頓されておりました。職人の方々は、ベテランの職人さんから若い女性の職人さんまでいらっしやっつて、大変活気のある職場でございました。能作さんを見学した小学生の女の子の中に、能作で働きたいという子がいたそうです。その子が実際に入社試験を受け、採用され、夢を実現されたという話を聞いて参りました。

外観や内観も大変素晴らしい美術館ではないかというような工場でございます。工場の中も綺麗ですがその手前のところは展示スペースになっており、大変綺麗にレイアウトされた商品または道具類をディスプレイしています。

それからレストランも併設されていて、産業観光ということで大変多くの見学者が来たり、プロの経営者の方も参考になるということで来たりしていますし、子どもたちも毎年のように、工場見学などをされているというところでございます。こうした地場産業をしっかりと地元で根付かせていくということを企業の皆さんも頑張っておられるということでした。

こうした視察を受けまして、今日の総合教育会議は「富士見市への愛着を育む取り組み」というタイトルにさせていただきました。また私ども市長部局ではシティプロモーション・シティセールスということで、“子育てするなら富士見市で”ということ、さらに進化させるまたは拡大させていくために、教育へのアプローチをしっかりと取り組むことを目標とさせていただいております。

担当課は地域文化振興課でございますけれども、まだ全体的な戦略まで至ってはございませんので発表する段階ではありませんが、来年度の予算編成に向

けてこうしたものもしっかり打ち込んでいき、富士見市の子どもたちへの教育をさらに充実させていき、そして愛着を持っていただける取り組みもこのような形で、ご意見をいただきながらシティセールス・シティプロモーションともに、市民の皆さんへも働きかけていく施策にしていきたいと考えているところでございます。

長くなりましたが、今日の議論の主題ということでお話をさせていただきました。今後も教育委員会と私ども市長部局が力を合わせて問題意識を共有し、富士見市の教育政策を進めてまいりたく、本日の会議が有意義なものとなりますことを心からお願い申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○森園秘書広報課長

ありがとうございました。それでは、続きまして小野寺委員につきましては、12月議会におきまして全会一致で、教育委員として再任をされることになりましたので一言ご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○小野寺委員

この度市長をはじめ関係の皆様、色々のご配慮いただき、教育委員として二期目を務めさせていただくことになりました。気持ちを新たにして富士見市の教育行政の充実発展のために精一杯努力をして参りたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○森園秘書広報課長

ありがとうございました。なお本日は説明員として、林教育部長・小林学校教育課長・鈴木教育政策課長が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以降の進行につきましては星野市長よろしくお願いいたします。

○星野市長

それでは、本日の会議録署名委員を指名いたします。五十嵐委員並びに小野寺委員を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日、富士見市への「愛着をもってもらう取り組みについて」を議論検討させていただきます。富士見市教育振興基本計画の中で、子どもたちが地域に愛着をもち、地域社会の一員として貢献しようとする態度を養うことを施策の一つとしております。市民の皆さんにずっと住み続けたい、また市外の方にも富士見市に住んでみたいと思っただくには、市民の皆様が富士見市への愛着や誇りを持っていただくことが大変重要だと感じております。

そうしたことから様々な機会を通して子どもたちに市の魅力を伝え、成長してからも富士見市に関わりを持ってもらえるような取り組みに力を入れていきたいと考えております。今回の総合教育会議では、委員の皆様方から現在取り組んでいる事業や今後の事業展開を含めて率直な意見を頂戴できればと思っております。まず市や地域への愛着につながると思われる、市の現在の取り組みや、事業内容について事務局から説明をいたします。

○森園秘書広報課長

資料の1から説明をさせていただきます。超高齢・少子化社会の影響で多くの自治体で人口が減少し、存続の危機に立たされている団体が多くあると予想されております。現在の富士見市の人口は、12月1日時点で111,137人、昨年同時期と比べまして211人増えています。しかしながら、今後本市におきましても緩やかに人口減少すると予想されております。

市民の定住意識、それから各施策の満足度等を調査する、市民意識調査を平成27年に実施をしております。その時に、定住意識に関する調査項目で、富士見市に住み続けたいと回答した方が76.3%となっております。資料の4をご覧ください。今年度実施した意識調査の結果です。資料の真ん中右側にございます定住意識のところを先に見ていただければと思います。平成27年は住み続けたいが76.3%だったのが、平成30年は77.4%ということで、住み続けたいが、前回より1.1ポイントアップしています。そして同じように左側の住み心地について、こちらにつきましても平成27年のところを見ますと、72.8%だったところが、平成30年におきましては74%ということで住みよいと思っただけでいる方が前回よりも1.2ポイントアップしています。

次のページをめくっていただければと思います。富士見市の魅力ある資源だと思ふものを調査いたしました。結果につきましては「川や水田、畑などの自然・農地」というのが一番高く30.6%、そして「水子貝塚や難波田城跡などの歴史・史跡」これが20%、「キラリふじみを中心とした文化芸術」が12%、「藤・桜・菖蒲やコスモスなどの花」は11%となっております。

資料の1に戻っていただければと思います。近隣の定住意識の状況は、ふじみ野市については84.7%となっており、富士見市の定住意識は77.4%ですのでふじみ野市の方が少し高くなっています。ただ、質問の仕方が少し違う部分もありまして、ふじみ野市は、「今は住み続けたいが分からない」という項目も合わせて住み続けたいが84%、三芳町につきましては、住み続けたいが80%ということで若干数字が高くなっている状況でございます。市の総合戦略において、目指すべき将来の方向性といたしましては、総人口10万人の維持を続けるということとしております。市外から富士見市の魅力を感じてもらい、住ん

でみたいと思ってもらうには、まず富士見市民が市に誇りと愛着を持ってもらうことが大切であるということが挙げられると思います。

そのためには、市長からも話もありましたように、子どもたちに住んでいるまちの魅力などを伝えて、自分のまちでもこんなことをやっているのだということを知ってもらうこと、それから都心の近くにこんなに自然環境が残っている、または富士山が見えるところがこんなにあるのだということ、他市にはない富士見市の良さというものを知らせてもらい、ふるさと富士見を感じてもらおうということが、シビックプライドや愛着と誇りの醸成につながり、成長してから富士見市に関わっていただくことにつながると考えております。

続きまして、株式会社能作の取組みにつきましては市長からもご説明がありましたので、こちらは省かせていただきますが、能作が工場見学に力を入れ始めたきっかけは、25年程前に現在の社長がまだ若かった頃に、ある親子が工場見学に来た時に、その親がお子さんに対して「ちゃんと勉強しないとういう会社で働くことになっちゃうよ」という話をしていて、それを聞いた社長がこのままではいけない、子どもに愛着をもってもらえるような会社にしなければと感じ、それがきっかけとなったとおっしゃっていました。それから、会社の様々な改善や工場見学をしやすい環境を整え、仏具だけでなく、インテリア関係とかビールジョッキとかそういった新しい物に色々と挑戦し、また皆さんに工場見学を通して、職人の一生懸命やっている姿そういったものを間近で見ってもらって、地域の誇りとしてほしいということを推し進めてきたとのことです。

資料の2をご覧ください。真ん中の写真にある通り、職人に近いところで見学をさせていただきます。真ん中右の写真をご覧ください。職人の方の右側に白い線がずっとついていますが、ここまでは人が来てもいいラインとなります。見ていただくとわかるように、磨いている様子とか、作製している様子が本当に間近で見ることができます。近距離で、においや火の熱さを感じることができるということが、この工場見学の最大の魅力となっているとのことです。ガラス越しに見るだけではなく、現場の職人さんの一生懸命に取り組む姿や、魂を持って仕事している姿というのをしっかりと見てもらいたいというのが伝わってきました。

続きまして資料の3をご覧ください。市で現在行っている愛着の醸成につながるような事業を簡単にまとめた内容となっております。上の方から順に説明いたします。まず一番上の文化芸術関係ということで、ここにつきましてはアウトリーチ活動で劇場鑑賞授業の提供を行うということで、文化芸術の拠点施設でありますキラリ☆ふじみで、指定管理者が市と連携しながら取り組んでいる事業でございます。例えば市内の小・中学校や富士見高校にオペラ歌手が行って、音楽の指導やワークショップをしたり、それから古典芸能の狂言を公演している万作の会が、中学2年生を対象に狂言についての講座

をしてもらったり、また、平田オリザさんに小学5年生を対象に演劇のワークショップを行ったりしています。また、昨年キラリ☆ふじみで実施いたしました松竹大歌舞伎、それから先週、12月13日に開催いたしました太鼓芸能集団の鼓動の公演につきましても、中学生を無料で招待をいたしました。そこで優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供し、子どもたちの豊かな心を育むことやまちへの愛着にもつながる活動をしております。

次のお祭り関係につきましては、ふるさと祭りや子どもフェスティバルなど様々なお祭りがありますが、例えば鼓笛隊や吹奏楽部による演奏、それからダンス発表、またフリーマーケット、そういったところを通して、子どもたちが活躍できる場というのを提供し、ふるさと富士見を盛り上げるイベントを行っているところでございます。

続きまして、子ども大学の説明をさせていただきます。子ども大学という取り組みは色々な自治体でもやっていますが、富士見市はスポーツ大学、文化芸術大学という、あまり他にはない取り組みをしています。子ども大学につきましては60人の子どもたちが参加いたしまして、トータル7日間の講座で、普段学校では学べない様々な経験をしているというものでございます。今年につきましては、セルビアの大使館で大使の話の聞いたり、富士見市と友好都市の関係がございませるビアのシャバツ市のことを学んだり、また市内にありますジェイコム東上局に行きまして、番組収録を見学したり撮影に参加したりしました。

スポーツ大学につきましては、40人ぐらいの子どもたちが参加し、例えば車椅子バスケットの体験、それから立教大学の富士見グラウンドにおいて、乗馬の体験をしたり、それから埼玉西武ライオンズの選手が野球教室を教えてくださいということも体験をしております。そして、子ども文化芸術大学につきましてはオリジナルの取り組みで、今年は30人ぐらいの子どもたちが参加をしております。サーカス体験や落語の体験、それからセリフを自分で考えて演劇を作るといった取り組みをして、文化に触れて子どもたちの豊かな感性や想像力、豊かな表現力を育んでいるというような状況でございます。

続きましてスポーツ関係につきましては、キッズレスリング体験教室ということで昨年9月から開催をしておりますが、富士見市PR大使であるロンドン五輪の金メダリスト小原日登美さんなどを講師に招き、市内在住・在学の幼児から小学生を対象に実施しております。毎回20人ぐらい子どもが参加しまして、勝ち負けにとらわれずに体力づくりに重点を置くということと、挨拶なども含めて人としての礼儀といったことなどを学ぶことに重点を置いています。また、田んぼラグビーにつきましては難波田城公園近くの田んぼで6月10日に行いました。土に親しみながら泥にまみれて自然を感じるということで、富士見市は自然も豊かで、田園風景もきれいであるということが特徴でありますので、そういった中で実際に子どもたちに田んぼに入ってもらい、みんなと

ボールを追いかけながら実際に泥の感触などを自分の足で感じていただくということが、富士見市の豊かな自然を体験できるきっかけになるのではないかと思います。

そして、次のページですが、毎年小学3年生が市役所や図書館、体育館などの施設を見学されています。そこで公共施設の役割ですとか、そこで働く職員がどのように市民の役に立っているのかということをお話しています。また庁舎見学の中で市長のところにも訪れていただいて、市長に対して様々な質問をしていただいています。ほとんどの子どもたちは市長がどういう人なのか分からないと思いますが、そこで直接会って市長と気軽に話す中で、市長の人柄であったりとか、直接受け答えする中で、市に興味を持っていただいたり、子どもたちの思い出になるきっかけとなるのではないかと思います。

また市内の水子貝塚公園、難波田城公園など、他の自治体にはあまりない歴史公園で富士見の歴史に触れてもらうことや、難波田城公園で田んぼ体験なども行っていますが、そういったところでも、泥だらけになりながら、親子で田植えをしたり、稲を刈ったりする、そういうところが普段の生活ではなかなかできないことだと感じています。また田んぼの中には生き物がいっぱいいるので、稲よりも子どもたちはカエルをとることに夢中になっている光景などを見ていると、そういうことも富士見市の良さなのかなということを改めて感じたところです。

また今後検討していく内容になりますけれども、東京オリンピック・パラリンピックが2020年に開催されることに伴いまして、トップアスリートとの交流、それから姉妹都市であるセルビア共和国の選手と子どもたちが今後、交流することになれば、かけがえのない経験になると思っています。

また、こちらの資料には書いてはありませんが、昨年度、提案型の協働事業で採択された難波田城いきものがかりさん提案の、座敷箒作製の技能伝承者育成事業を今年9月に実施しました。昔、座敷箒は富士見市の近隣の地域で特産品でありました。また、その座敷箒の材料である、ほうきもろこしの作付面積が、県内でも一番この辺が多かったということです。今回は大人の方だけの参加でしたが、例えばそういったところに子どもたちが参加し、伝統技能に触れる機会があると、富士見市の歴史に触れ、なおかつ市への愛着にもつながることになるのかなということを感じたところでございます。

このように、市では子どもたちに様々な魅力を伝えられるように、色々な事業をしております。事務局からの説明は以上でございます。

○星野市長

ありがとうございました。現在、内閣府へセルビア共和国のホストタウンとしての登録をしているところでございます。年内には内閣府から吉報が届くのではないかと思います。そして、先ほど申し上げたトップアスリートを

セルビアからお迎えして、子どもたちとの交流会などを企画したいと思っているとございます。

続きまして、学校の取り組みの中で市への愛着につながる事業などについて学校教育課長より説明をお願い致します。

○小林学校教育課長

では、資料3をそのまま引き続きご覧になっていただければと思います。2ページの2のところでございます。現在、様々な方のご理解とご協力をいただき、地域の教育力を生かして学校教育を進めていくというような視点に立って、様々な体験を生かした活動を取り入れていこうという事が一つ柱となっております。その体験は資料に書かせていただきましたが、自然、あるいは職場、勤労生産、社会奉仕、交流、文化芸術というもの様々ございまして、それを各学校の課題に応じて、子どもたちに様々な経験を積んでもらおうと活動を進めているところでございます。その中には市民の方の力をお借りして、郷土の文化・歴史・未来等に理解を深めながら健全な児童生徒の育成をしていくという視点で各学校が計画を進めているところでございます。

様々な取り組みを行っている中で、一部紹介いたしますが、そこに書かせていただきました主権者教育という、中学校で取り組んでいるものがあります。今年、西中学校で「これからの富士見市」というテーマで、富士見市の取り組みについて子どもたちが議論を交わしながら学習する場がございまして、どうしても子どもたちだけでは回答ができないだろうという部分もあるので、市の職員に協力をしてもらい、回答に関係する課の職員が学校と一緒に行きまして、そこで子どもたちの質問等に対して答えをサポートしていただきました。子どもたちにとっても、大変有意義な時間だったというふうに私は捉えております。

それからふれあい講演会でございます。こちらは中学校で、キャリア教育の一環として、子どもたちそれぞれの特徴を活かす、あるいはそれぞれの個々の伸長を測って、将来へ向けての自分の生き方を考えるという視点で取り組んでいます。今年は西中学校と富士見台中学校で開催し、富士見台中学校では市長に講演をお願いしたところでございます。

また過去には、水谷東にお住まいだったオリンピックの砲丸を作っておられた辻谷正久様をお呼びして講演をしていただきました、さまざまな地域の方がそれぞれの人生や考えをお話しいたいただき、子どもたちには意義のあることと感じております。

社会体験活動でございます。こちらは中学校で、スリーデイズチャレンジと言いまして3日間市内を中心とした事業所に行きまして、実際に仕事をしてくるという取り組みとなっております。サービス業が中心になりますが、コンビニエンスストアや飲食関係など、多くの業者さんにお力添えいただいて、3

名から5名で小グループを作り、それぞれの企業さんへ伺って体験をし、その後普通の学校で行う学習との違い、「社会にとって必要なものは何か」「自分がこれから身につけなきゃいけないものは何か」ということで、様々な部分で事前事後学習をしながら取り組んでいるものでございます。特に最近女の子に人気なのが、保育園・幼稚園は非常に希望が多い状況です。ただ受け入れる側も責任がありますので、そう大勢はなかなか対応できない。色々とまだ検討課題はあるかと思いますが、社会体験活動に取り組んでおります。

次に地域体験でございますが、こちらは小学校で取り組んでいるものです。地元のお寺や商店を散策しながら、地域にどんなものがあるか、どんな人がいるのかというようなことを勉強しています。ほかにも、鶴瀬公民館を活用させていただいて、戦争体験ということで6年生が授業に取り組んでいます。場所の問題もありますので、すべての学校ではできませんが、非常にこちらも大切な授業で鶴瀬公民館とともに教育の推進に取り組んでいると報告を受けております。

それから、町内会のお祭りや運動会等の参加ですが、先ほどもお話がありました。子どもフェスティバルに、各中学校だいたい10名前後がお手伝いに加わっています。またそこで地域の方や小さなお子さんに触れ合って、そこで子どもたちは色々なことを学んでいます。またふるさと祭りあるいは各地域のお祭りに、合唱などで参加をさせていただいております。地域の方に各学校の教育をご理解いただく、あるいは発表の場を提供していただく、またその地域の方が、そういう音楽に触れたことによって感動したという非常にありがたいお言葉もいただいて、また子どもたちにもやりがいを与えていただいていると、このことで相乗効果があってこれも学校としては嬉しいことでございます。

また、地域の町会の運動会も、各地域それぞれ特色ある競技・種目があるかと思いますが、親子で一緒になって競技に参加して地域の方と触れ合っている機会がございます。

それと話が重なりますが1ページ目に戻らせていただいて、アウトリーチ活動として、本市はキラリ財団に協力をいただき、昨年度は小学校で4校、中学校で3校が参加しております。今年度もこれからの学校もありますが、同じく小学校は4校、中学校は3校活用するということで、こちらは能や狂言、特に日本の伝統文化というものを教材に学習し、学校に来て講演やご指導、あるいはワークショップという形で子どもたちも一緒に参加をして、普段できないことをやることによって子どもの興味関心を引き、この活動を取り入れた学校は非常に良かったと聞いております。講演して下さった方々からも子どもたちがとても良かった、子どもたちが一緒になって自分で考えながら取り組んでくれたというようなご意見をいただいているということです。今後につきましても、学校側では例年取り入れていきたいという話をもらっています。地域の様々な力を活用して子どもたちの教育を見守っていただいています。また我々

も様々な取り組みを研究し、情報を発信し、まだ取り組んでいない学校、知らない学校などに伝えていければと考えております。

○星野市長

ありがとうございました。

説明を市長部局並びに教育委員会からさせていただきました。それでは委員の皆様から、富士見市に愛着や誇りを持っている点、市の強みと感じていることなど自由にご意見をいただければと思っております。

今こういった事例をお話しさせていただいてご意見をいただきますが、もう一つは挨拶の中でお話ししたように、シティプロモーションという考え方を、これからも市の施策に特に強く打ち込んでいきたいと思っています。富士見市の良いところをしっかりと情報発信し、富士見市は良いところだね、とりわけ先ほども申し上げましたが、「子育てするなら富士見市」であるとか、またさらにその先の教育についても「富士見市の小学校・中学校に行けば子どもたちも安心できる」というような状況も作ってもらいたいと思っています。しっかりと各施策を推進し、さらにそれをしっかりとPRさせていただきたいと思えます。さらには愛着の持てるまち、富士見市に住みたいと思っただけの取り組みを進めていきたいと思っております。それでは順不同で自由に発言いただければ幸いです。五十嵐委員お願いします。

○五十嵐委員

市の強みという部分では、思いを形にしてくれる市長がいるということを感じています。先ほど取り組みについて説明があったように、私も地域でお祭り関係ですとか、子ども大学への協力ということで参加させてもらっています。自分が誇りとして持っているのは、その地域で行う祭りが一つと、もう一つは地域の中に長年続いている企業です。ただPRや活用がまだまだ富士見市では、足りないのかなと思っています。

先ほど市長が視察にいった能作の取り組みを聞かせていただいて、似たようなところが富士見市にもあるなと感じました。こういったものを最初は真似でも構わないと思いますが、是非そういった企業を活用して、市のPRや教育に活かせていたらもっといいのかなと感じました。

○星野市長

五十嵐委員は子ども大学の中で、和菓子体験などの授業を提供していただいていますよね。その時の子どもたちの様子はどうか。

○五十嵐委員

子どもたちから報告書が上がってきますが、和菓子体験の部分は否定の言葉がなく、全部楽しかったなどという意見をいただいているので、間違っていないと感じています。あとは、実際に一緒に作業する中で、子どもたちの笑顔であったり、話し方であったりとか、いろんな部分で子どもたちが楽しんでくれているなど感じています。また、自分自身も学ぶことも多々ありますので、よい取り組みだと感じています。

○星野市長

ありがとうございました。箕輪委員どうですか。

○箕輪委員

市では地域が主役のまちづくりを進めており、市内 55 町会や各地区のまちづくり協議会が、いろんな活動を行っていると感じています。新しく富士見市に住まれた人も含めて、そこに住む人は自分の地域の良さを感じることで、愛着度を高めていくのではないかと考えています。そういう意味では町会の活動は大きな役割を果たしているし、これを引き続き発展させていくことが必要だろうと感じています。

ただ一方であまりにも多くの仕事を町会にお願いしているという状況の中では、疲弊してきているところもあって、中には役員のなり手がなくて副町会長が欠員のままで経過しているという話を以前に聞いたこともありました。町会活動に皆さんが力を出していけるように、市として応援していくことが改めて必要になってきていると感じています。

○星野市長

この話は町会・町会長連合会並びに各役員さんとお会いする中で、大変多くのご意見をいただいています。新しい担い手の皆様の発掘を含め考えないといけないと思っています。では、小野寺委員お願いします。

○小野寺委員

学校にずっと勤めてきてつくづく思っていることは、他の市・町に比べて教育環境が非常に良いというのは強みだなというふうに思っています。他の市町村から来た先生とか、富士見市から他に行った先生とか色々な方とお話しをしますけれども、施設設備にしても消耗品の予算にしても地域の方の協力にしても、いろんな面で教育環境が恵まれているなど感じています。

○星野市長

ありがとうございます。渡部先生いかがでしょうか。

○渡部委員

私は富士見市出身ではないので、みなさんと比べると富士見市への愛着を意識したことがないのですが、愛着というのはいつでも帰ってこられる場所、安心していただける場所など、自分の居場所がなければ愛着は湧いてこない気がします。例えばふるさと祭りもすごくいいと思うし、この時期にここに帰って来れば友達がいる、親がいる、みんなが居る場所があるのはすごくいいと思います。ただ、もう少しふるさと祭りには特徴があったほうがいい気がします。例えば長野県の諏訪で行われる御柱祭や、大阪のだんじり祭りだとかそういった特徴的なものをもっと作って、この富士見市に帰って来ればみんながいるっていうことが、私はいいかなって思っています。

○星野市長

ありがとうございます。教育長お願いします。

○山口教育長

大きく二つに分けると、一つとしては物理的な環境。先ほどからもあったように東京 30 km 圏内でありながら、これだけまだ自然環境があったり、農業が盛んだったりするところ、これは子どもにとってもいいという部分で市の強みでもあると思います。教育とは少し関係なくなりますが、交通利便性が高いのも市の強みとしては大きいと感じます。もう一つは内発的と言うか人的な環境、先ほど小野寺委員からもありましたが学校に勤めているものとしても、実際に働いている時はそんなに感じなく、目の前のことで一生懸命でしたけれど、出てみて余計に思うことが、地域の方々が学校を支えてくれています。

先ほどの子ども大学にしても、地域の方が大きな力を果たしていただいています。そういった人材が豊富なのところが市の強みの一つだと思っています。富士見市を良くしたいと思っている人がたくさんいるって言うことを、教育長になってつくづく感じました。これが教育環境にもいい影響を与えていると思います。

○星野市長

ありがとうございました。次に、特定のところでフォーカスを当ててご意見を伺いたいと思います。シティプロモーションやシティセールスに“教育の良さ”、そういったところを入れて対外的に情報発信したいと思っています。この前の 12 月の定例会でもそうしたシティプロモーションに関わる質問がありそれぞれ部長が PR できる施策について答弁をさせていただきました。

家庭学習応援事業であるとか、先生を支援する若手教員の皆さんへの支援事業など他の自治体では行っていない取り組みをしております、子どもたちに対しても、それから先生に対しても、しっかり支援し、これからも支援を拡充

したり厚くしたりすることで、自ずと富士見市の教育が良くなったね、ますます良くなったねと感じてもらいたいと思っております。私は市長部局から見ておりますので、教育委員の皆さま方から富士見市の教育はここが良いというところや、ここは違うというところのご意見をいただきたいと思っております。

よく山口教育長からもここ数年は富士見市で教鞭をとりたいという先生方が増えていますよという話も聞いています。先生方は新任で富士見市に来られても5年とか7年経つと他市町村に行かれてしまいます。そういう人事はつきものですが、大きくなってまた富士見市で教鞭をとりたいと、10年15年経った後に富士見市でもう一回中学校で頑張りたいとかって言うていただくのはとても嬉しいなと思っております。そういったことも含めてなんですけど皆さんから見て、富士見市のここがいいというご意見をいただき、私どもを勇気付けていただきたい。それをシティセールスの担当課が中心となって対外的に発信していきたいと思っております。簗輪委員をお願いします。

○簗輪委員

教育的な観点で言うと、富士見市は地域が学校と一体となって子どもたちを育てるという取り組みが非常に優れている。具体的にではなく、総合的に全部含めて、市外から来られた先生方がまず感じるのはそこだと思います。多くの人が言っているのも、そこはすごくインパクトのある取り組みをしているのだろうなって思います。もう一つは二年前から始めた新任の先生に対する退職された校長先生をはじめ、実践をやられた方からご指導いただいて、具体的にその現場で一緒に見ながら研修をされているということが、非常に効果を出してきていますし、今後ますます新しい先生にとっては必要なことを、先駆けてやってきているということと言えるのかなと思います。

それからもう一点はこの前の「中学生の主張大会」で感じたことですが、半世紀経って我々の世代とは明らかに違う子どもたちが育ってきている印象を受けました。テーマも今年は様変わりして、いろんな点から新しい主張がされていました。特に勝瀬中学校の生徒が話した内容が印象に残っています。都会から来る転校生から、埼玉県は田舎だと見下されたので、埼玉県のいいところを自分で探り出して、その子どもに教えてあげたという発表だったんですね。埼玉県にはこんな良いところがあるんだということをさらに広めていきたいという発表でした。我々の世代とはまた違う視点をもって、先ほど2025年からの人口が減るという予想が出されていますが、2025年から2040年にかけて、その頃20代から40代の働き手になる子どもたちが、今富士見市の良いところがどこだと思っているのか。すべての中学生たちから良いと思っているところについてアンケートを取ることもいいことなのかなと思います。市民意識調査もやっていますが、新しい世代がこういうところをアピ

ールしたいと思うことを聞き、それを応援するように行政がタイアップしていくのがいいのかなと思います。

○星野市長

やっぱり子どもたちのアンテナは違いますよね。今箕輪先生がおっしゃっていただいた勝瀬中学校の生徒の主張を私も聞きましたが、私も驚きました。こういうタイトルでお話をさせていただく生徒がいるんだなど。私も非常に感心しました。

これから生きる子どもたちに富士見市の良いところを聞くことは面白そうですね。この後第6次基本構想の計画が始まります。平成33年からの計画なのですが、これを思いきってロングスパンで議論しませんかということを担当部で考えています。まさに小学生・中学生は面白い意見を持っているのではないかと思います。

○小野寺委員

私も2点。学校教育と社会教育は教育の両輪だということを、昔から富士見市はしていて、この連携が他市と比べると非常にうまくいっていて、誇れるのではないかと思います。

最近始まった家庭学習応援事業にしても、公民館が協力してくれているし、公民館としては親の学習会を地域でおこなっていて、子育ての手助けをさせていただいたりしています。もう少しお互いに時間があれば、もっといろんなことをやれるのではないかと思います。今の段階でもよく連携がとれていて、いろんな助け合いをして、うまく子どもたちを育てていただいているのではないかと思います。

2点目は特別支援学校です。市は財政的に大変だろうとは思いますが、市のレベルで学校を持っていて、しっかり運営ができているというのは、誇っているのでは、強みではないかと思います。障がいのある子の教育はもとより、学校があることによって、優しい人づくりができているのではないかと思います。

○星野市長

ありがとうございます。渡部先生どうですか。

○渡部委員

今の子どもたちはゲームが好きで、診察室や診療中でもゲームをやっている子たちが多いんですね。バーチャルの世界に入り込んでいるので、さっき色々な事業を聞かせていただいたように、子どもたちに様々な実体験をさせていることはすごく誇れる、富士見市の良い教育だなと感じました。

○星野市長

そういう意味では、大人の力を連携して作っていくということが、今の時代だと思いますが、自分の時代から比べれば、大きな違いですね。教育長どうですか。

○山口教育長

今おっしゃっていた、我々の頃にはなかったことが、今あるという見方もありますが、我々の頃にあったことがなくなったから補うためにやっているという考えもできます。遊びがふんだんにあったし、それも体験をとおした遊びが多かったです。そんなに道具もなかったので、自分から作り出すために色々な工夫や努力、仲間づくりもしていました。今は仲間がいなくても遊べてしまうし、与えられたもので満足してしまったり、人と関わらないほうが楽とか、そういうことが多くなってきているように感じます。だからこそ、あえて学校教育や社会の中でも、体験活動を重視しているのではないのでしょうか。それも、子ども大学・スポーツ大学・文化芸術大学しかり、学校での地域の人に入っていただいている教育活動、子どもが地域に出てっての地域活動が富士見市は充実している方だと思います。

もう一つは、教育長になってから学校にお願いしているのは、今まで地域の方に様々な協力をしていただいています。忙しい中ですが、忙しい中でも、教職員がもっと地域の中に出て行って、地域の中で自分たちが活躍できる場所を増やしていくと、さらに相乗効果になっていくと考えています。水谷東地域の防災訓練は、水谷中学校の生徒が、必ず全員が体験をすることになっていて、地域の人も中学生を頼りにしています。各地で行われている体育祭やお祭り、コスモスボランティアの活動など中学生をボランティアとして声をかけていただくようお願いしています。その中で、地域の方と直接子どもが触れ合って、語りあってという場面が多くなってきています。それをさらに広げたいと思っています。それが、愛着につながっていき、誇りにつながり、渡部委員がおっしゃっていたように、戻ってこられる場所・安心して暮らせる場所につながっていくと思います。学校が地域と一緒にそういう環境をつくっていき、子どもたちにとって良いつながりを持てる環境にしていくということ、それが富士見市には可能性が多々あるなと思っています。

○渡部委員

患者さんと話していてボランティアってメリットがあれば参加するという人って結構多いという話をよく耳にします。ボランティア活動には基本的にメリットはありませんが、でも参加することによってそれぞれ何かを感じることができるものだと思います。人から何か関係づくりをするきっかけを期待している人が多い気がします。

○星野市長

五十嵐委員はよさこい祭りで、富士見台中学校の子どもたちにずいぶん手伝ってもらっていますよね。

○五十嵐委員

非常に助かっています。渡部先生が言うように、つるせよさこい祭りが、今後ここで育ってきた子どもたちにとって帰る場所であるために、ずっと続けていかなければいけないというふうに思っています。

○星野市長

ありがとうございます。

最近よく、言葉として使われていますが、「つながりを求める」「つながっていたい」というような言葉をよく耳にします。核家族であったり、子どもの貧困であったり、ある面さびしさもご家庭の中にあるのかもしれませんが、でも、社会や友人・学校がそういったものを補っているということが、富士見市には多いのではないかと思います。少しずれてしまうかもしれませんが、市長に就任してから、各課の職員のところへ直接行くようにしています。ほかの課に行っているいろんな話をしていると、意外に管理職や先輩たちが遠慮しているように感じます。これは、つながりなどの話にもつながっていくと思いますが、若い人たちも待っているようにも感じています。これを管理職や先輩たちが積極的に声をかけることが大事だと思います。ですから、子どもたちも、地域や大人などの周りの人が背中を押してあげる、または引っ張り出してくるということが大事で、そういった人が富士見市にいることは良いことだと思っています。

○簗輪委員

学校が地域に出てということが先ほどありましたが、新しいスタイルだなと思ったのは、本郷中学校の2年生と3年生による自主合唱団ということで、水谷公民館のふれあいの夕べに参加していただき、非常に素晴らしい歌声を披露していただきました。合唱部ということではなく、臨時で作ったのだと思いますが、部活動じゃないけれども、こういった活動のスタイルというのは新しい展開だと感じました。

もう一つは、新河岸川のコスモス街道を水谷第7町会が中心になり管理しているのですが、本郷中学校の生徒もボランティアで継続して取り組んでもらっています。そういったところで、先生方だけでなく生徒が地域に出ていく、といったところは、富士見市の教育は深まってきているなと感じています。

先ほど渡部委員の話を聞いて、私はここで生まれ育った一人ですが、40年別のところで生活をしていて、ふと外からふるさとを思うときに、自分が生まれ育ったときの体験が、自分のふるさとを作るうえでの原風景になるのだろうかというふうに思ったんですね。印象的なのは、楽しかったことや、周りの大人が良くしてくれたことが残っています。例えば小学生のときに、地域の人たちが宿題教室をやってくれていました。そこで集会所に行き、学年が上の人たちに教えてもらったりしていたのを覚えています。

富士見市に戻った時に、青少年育成市民会議の宿題教室に誘われて参加しました。そういう体験を今の子どもたちがしていくことは大切だと思っていますし、特に小学生に対しては、色々な団体が良い思い出を作れるような取り組みをしてくれているなどと思っています。ただそこで一つ注意しなくてはいけないのは、ただ押し売りの的にやっちゃってはダメだし、その享受する子どもたちが次に自分たちがリーダーや働き手になるんだという意識を持てるような教え方や与え方が大切だと思っています。

そういう意味では、水谷公民館で40年以上行っている青空学校は、参加した子どもたちが中学生・高校生・成人になっても、市外に出ても、そのために戻ってきて、実行委員に加わっている。そういうつながりができてきているというのを聞いています。その中で享受した子どもたちがリーダーになるように応援していくことが大事だと思います。

○星野市長

ありがとうございます。他にどうでしょうか。大変ありがとうございます。こうしたご発言をいただいたものを、記録にも残させていただき、しっかりと富士見市の教育の発展並びに愛着のもてる仕組みや仕掛けを作っていく、今まで培ってきたものにも光を当てて、それをシティプロモーションの一つの材料とさせていただければと思います。

本日予定しております協議事項は以上でございます。

○森園秘書広報課長

署名委員に指名されました、五十嵐委員と渡部委員につきましては、後日会議録がまとまり次第ご連絡をさせていただきますので、ご署名をお願いいたします。

以上でございます。

○星野市長

以上をもちまして、本日の会議は終了いたします。

お疲れさまでした。